

2024/8/25

ルカの福音書 講解メッセージ⑳

『ルカの福音書 8章 22-39節 突風に吹かれる』

### ■湖での出来事

「そのころのある日のこと、イエスは弟子たちといっしょに舟に乗り、「さあ、湖の向こう岸へ渡ろう」と言われた。それで弟子たちは舟を出した。舟で渡っている間にイエスはぐっすり眠ってしまわれた。ところが突風が湖に吹きおろして来たので、弟子たちは水をかぶって危険になった。そこで、彼らは近寄って行ってイエスを起こし、「先生、先生。私たちはおぼれて死にそうです」と言った。イエスは、起き上がって、風と荒波とをしっかりとつけられた。すると風も波も収まり、なぎになった。イエスは彼らに、「あなたがたの信仰はどこにあるのです」と言われた。弟子たちは驚き恐れて互いに言った。「風も水も、お命じになれば従うとは、いったいこの方はどういう方なのだろう。」

(ルカ 8:22-25)

イエス様と弟子たちの会話から、「神は私たちにビジョンを与え、導く方である」と読み取ることができます。聖書は、「神は私たちの中に願いを起こし、実現に至らせる」と教えています。今、神はあなたの心に語りかけ、導いてくださいます。もし道に迷うことがあったら沈黙し、神の声を聞きましょう。それが、祈りの本質です。「しもべは聞きます」と、神の前に静まる時、神の声が自分の中に思いとして示されます。私たちの中に永遠のいのちがあり、神が私たちの土台ですから、カーナビシステムのように、神は私たちを導くことができます。あなたは、神のナビゲーションに従って生きていますでしょうか。

さて、弟子たちがイエス様の言葉に従って舟を出したところ、イエス様はぐっすり眠ってしまわれました。神のことばに従うなら、何の心配もいらない、安心してよいというメッセージです。ところが、舟は突風に襲われ、弟子たちは危険な状況に陥ります。神に従ったのに、なぜ困難な状況が起きるのか、それは、信仰が試される時が来たということです。神が与えるビジョンは、この世とは摩擦をひきおこします。その時、神を信頼して進むか、あきらめるかという選択があります。

「私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。信仰がためされると忍耐が生じるということ、あなたがたは知っているからです。その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。」

(ヤコブ 1:2-4)

試練とは、信仰の選択のことです。完全な者になるとは、信仰が成長することです。何かができるようになるということではなく、神をどこまで信頼できるようになるかと言うことです。

舟に乗っていた弟子たちは、慌てふためいてイエス様にしがみつきました。弟子たちは不安になって右往左往するだけでしたが、神を求める者を神は必ず助けてくださいます。

神はあなたの苦しみを告白するように言われます。不安も恐れも神に訴えればよいのです。「重荷を負ったまま、私のもとに来れば、あなたを助けてあげよう」とイエス様は言われました。苦しみをひとりで抱えてはいけません。神に訴えるならば、湖に風が訪れたように、心に平安が訪れます。

真剣に祈れば祈るほど、神への信頼が増し加わり、揺るがない信仰へと成長します。ですから、神からビジョンを得たら一步を踏み出しましょう。アブラハムはどこに行くかも知らないまま、神の導きに従って出発しました。彼は様々な困難にぶつかりましたが、ついに神の安息の地を踏みました。

神の声を聞き、神が示す道に進むことができれば幸いです。

信仰とは神を信頼し右往左往しないことです。それを目指しましょう。

## ■悪霊を追い出す

「こうして彼らは、ガリラヤの向こう側のゲラサ人の地方に着いた。イエスが陸に上がられると、この町の者で悪霊につかれている男がイエスに出会った。彼は、長い間着物も着けず、家には住まないで、墓場に住んでいた。」

(ルカ 8:26-27)

「悪霊につかれている」とは、偽りの情報に支配されているということです。「悪魔・悪霊・サタン」は、ヘブライ語で「敵対者」という意味で、神に敵対する運動のことです。神は真理です。つまり、真理にて期待する情報は偽りであり、神は偽りの情報と戦うように教えています。

偽りの情報に支配されると、心が病んでしまいます。この男性は偽りの情報に支配され、心が病んでいる状態にあったと分かります。

聖書を読むときに大切なことは、自分がどう思うかではなく、聖書がどう教えているかです。それを知るためには、聖書の言葉は聖書で解き明かすことが大切です。そして、その御言葉にも優先順位があって、一番大切なことは、イエス様が言われた言葉です。イエス様の言葉が憲法としてあり、それに解釈をつけているのが弟子たち、あるいは預言者の書いたものです。

では、悪魔についてイエス様はどのように語っているのでしょうか。

「あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立ってはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。」(ヨハネ 8:44)

罪を犯している人たちは、偽りの情報を信じることによって生まれました。悪魔とは、真理に敵対する者、すなわち偽りの情報を指します。偽りの情報は、言葉巧みに私たちにだまし、滅びに導きます。その情報がこの世界には満ちあふれています。その情報に心を奪われると、やがて正気を失ってしまうのです。

偽りの情報の代表的なものは、次の3つです。これを信じると心を病んでしまいます。

## 1. お前はだめな者

これは、偽りの情報の最強クラスです。親は、この情報を子どもに刷り込んでいます。相手にメッセージを伝えるのに使われるのは、言葉ではなく、アクションや雰囲気といった非言語が大半です。親は子どもを叱るとき、無意識に「お前はだめな者だ」というメッセージを送っているのです。

ですから、誰の心の中にも自分はだめな者だと言うメッセージが刷り込まれています。その情報が心を支配すると、私たちは心を病んでいくのです。それは、私たちは神に似せて造られた良きものだからです。本来機能するはずの器官が機能しないことを病気と呼びます。本来良き者なのに罪を犯してしまうのは、病気だからです。

大切なことは、本来の姿です。ところが、私たちは自分が良き者であることが見え、うわべしか見えませんので、誰の心の中にも自分はだめな者だというネガティブなイメージがあるわけです。

## 2. お前は愛されない

誰もが「お前なんか愛されない」というイメージを心の中に持っています。そのイメージは、条件を付けてほめられるという経験をすることによって、心の中に植え付けられていきます。

親は、子どもががんばっていたらほめるでしょう。この世界では、100点を取ったらほめられ、1等を取ったら、「よくやったね」「すごいね」とほめられます。それは、100点を取らないとほめられない、1等を取らないと愛されないというメッセージでもあります。頑張らなければ愛されない、〇〇ができれば認められない、そう思っているから、みんな頑張るわけです。

その頑張りを支えているのは、「自分は愛されるはずがない」というネガティブな思いです。ネガティブな思いがポジティブな思いを支えているのです。一生懸命頑張る人ほど、ネガティブが強いのです。これが私たち人間の行動パターンです。

私たちの中に自分は愛されない者という偽りの情報が入り込んでいるのです。

## 3. 罪は赦されない

罪は赦されないと思っているため、人は必死に罪を隠そうとします。しかし、罪責感が強くなると苦しくなって、パンクしてしまい、心を病み、人との関わりを避け、やがて社会性を失い、心の病という診断に至ることもあります。

たとえ心の病の診断を受けていなくても、誰もが心の病を抱えていて、例外はありません。それは、誰もが愛されたいと思っているからです。誰もが偽りの情報に支配されています。

ただ、それをうまく処理できる人とできない人とがいるのです。しかし、自分でうまく処理できない人は、神に近い人とも言えます。「私のところに来なさい」というイエス様からのメッセージを素直に受け取ることができるからです。反対に、お酒でごまかしたり、ストレス発散の方法を持っていたりして、適当に処理できる術を身につけている人もいますが、それは見せかけのものであって、誰もが心の病気を抱え、体の病気を抱えています。

この現実には私たちはなかなか気づきませんが、その原因は、イエス様が言われたように、偽りの父が言葉巧みに私たちを惑わすことです。蛇がアダムとエバを巧みに騙して罪を犯させたように、私たちをうまく誘導して偽りの情報に支配させます。

すべての人が罪人であるとは、すべての人が心を病んでいるということです。例外はありません。それに気づく人と気づいていない人がいるということです。気づいて苦しんでいる人は幸いです。

「彼はイエスを見ると、叫び声をあげ、御前にひれ伏して大声で言った。「いと高き神の子、イエスさま。いったい私に何をしようというのです。お願いします。どうか私を苦しめないでください。」それは、イエスが、汚れた霊に、この人から出て行け、と命じられたからである。汚れた霊が何回となくこの人を捕らえたので、彼は鎖や足かせでつながれて看視されていたが、それでもそれらを断ち切っては悪霊によって荒野に追いやられていたのである。」

(ルカ 8:28-29)

この男性は、イエス様を神であると見抜きました。苦しみの中にあつたこの男性は、神を知ることができたのです。イエス様が語られた「心の貧しい者は幸いである、あなたは神の国を見るから」ということばのとおり、闇の中で苦しんでいる人には光が分かるということです。闇がなければ光はわかりません。ですから、闇の中にいる人は幸いなのです。

病気などの苦しみに出会うと、自分はもうどうしようもないと思うことがあるかもしれません。しかし、そうではありません。その人は幸いなのです。それは、光がわかるからです。自分にとって何が必要かがわかるからです。

しかし、神と出会った彼は「いったい私に何をしようというのか」と叫びました。というのは、光が来ると闇が消えていきます。彼は、偽りの情報での暮らしに慣れ親しんでいたため、自分を変えたいとは思わなかったのです。

多くの人々が、自分の生活が満足できるものでなかったとしても、その生活に慣れ親しんでいると変えようとは思いません。たとえ「あなたの罪は赦される」と聞いても、そんなことはどうでもいいと思ってしまいます。自分を変えたくないからです。こうして福音を拒否してしまうのです。しかし、イエス様は彼との関わりを続け、尋ねました。

「イエスが、「何という名か」とお尋ねになると、「レギオンです」と答えた。悪霊が大ぜい彼に入っていたからである。」(ルカ 8:30)

レギオンとは軍団という意味です。偽りの情報は一つではなく、軍団なのです。私たちは、いろいろな偽りの情報に支配されているということです。しかし、その偽りの情報の目的は一つです。それは、私たちが滅ぼすことです。偽りの情報は、私たちが神に心を向けることなく、死に追いやることを目的としています。

「悪霊どもはイエスに、底知れぬ所に行け、とはお命じになりませんようにと願った。」(ルカ 8:31)

偽りの情報に支配されている男性は、これを追い出さないでくれと懇願しました。この暮らしを変えたくないから、このままにしてほしいと願ったわけです。

「ちょうど、山のそのあたりに、おびたしい豚の群れが飼ってあったので、悪霊どもは、その豚に入ることを許してくださいと願った。イエスはそれを許された。悪霊どもは、その人から出て、豚に入った。すると、豚の群れはいきなりがけを駆け下って湖に入り、おぼれ死んだ。」(ルカ 8:32-33)

この出来事には、二つの意味があります。一つは、神はその人がわかる形で愛を示されるということです。イエス様は、彼が望む形で偽りの情報を追い出しました。もう一つは、偽りの情報が豚に入ったことで豚がおぼれ死んだことを通して、偽りの情報は私たちを滅ぼすということを示されました。彼は、今まで慣れ親しんできた偽りの情報こそが自分を死に追いやるものだと思いの当たりにしたわけです。こうして彼の中からいつわりの情報が追い出され、彼は自分が愛される存在だと気づくことができました。

「飼っていた者たちは、この出来事を見て逃げ出し、町や村々でこの事を告げ知らせた。人々が、この出来事を見に来て、イエスのそばに来たところ、イエスの足もとに、悪霊の去った男が着物を着て、正気に返って、すわっていた。人々は恐ろしくなった。」(ルカ 8:34-35)

偽りの情報と共に、もう一つ私たちに苦しめるものがあります。それは、罪です。罪は偽りの情報ではなく事実です。そして、罪を犯した事実は人を苦しめるわけですが、私たちは、罪は赦されないという偽りの情報に支配されています。罪の苦しみを放置することによって、心が病んでしまうわけですが、彼にもう一つ必要だったもの、それは罪が赦される経験です。そこでイエス様は彼に着物を着せたのです。彼は裸でした。誰かが着物を提供しなければ、着物を着ることはできません。そして、着物を着せてもらった瞬間、彼は自分の罪が赦されたことを、理屈抜きで体験したのです。

アダムとエバが罪を犯して苦しみの中にあつた時、神は彼らに着物を着せました。彼らが自分の裸を恐れていたからです。着物を着せるということは、裸を覆うということです。それは、あなたの罪は私が背負うから心配いらぬというメッセージなの

です。

メッセージを伝える方法は、言葉だけではありません。むしろ、非言語のほうが強く伝えることができます。着物を着せてもらうという行為は、彼に非常に強いインパクトを与え、彼は自分の罪が赦されたことを経験し、正気に戻ったのです。

私たちが正気に戻すには、お前はだめだ、愛されないという偽りの情報を追い出すことが第一ステップになりますが、それだけなら世の中のカウンセリングで対応できます。しかし、そこには罪の赦しはありません。人にはそんな権威はないからです。しかし、私たちはそれを伝えることができるのです。

罪の赦し、それこそが人を完全に正気にするのであり、最も重要な癒しです。私たちに必要なのはこの経験です。

「目撃者たちは、悪霊につかれていた人の救われた次第を、その人々に知らせた。ゲラサ地方の民衆はみな、すっかりおびえてしまい、イエスに自分たちのところから離れていただきたいと願った。そこで、イエスは舟に乗って帰られた。」(ルカ 8:36-37)

このような奇跡を見たら、「イエス様、私のところにもおいでください」と願いそうなものですが、人々はイエス様に離れていくように願いました。それは、イエス様が、自分が来た目的を明確にされたからです。

人は、体の病気が癒されることは歓迎します。しかし、心の病気はそうではありません。偽りの情報で自分の価値を守ってきたため、偽りの情報を奪われたら、自分の価値を失ってしまうからです。

この地上では、全ての人が見えるものによって自分の価値を得ています。地位やお金、学歴や評判などに自分の価値を置き、人から認められることで安心しているわけです。しかし、神に依存しない価値は、すべて偽りです。私たちの本当の価値は神様から来るのです。

偽りの情報を追い出すとは、今まで慣れ親しんできた暮らしを捨てること、つまり、今まで慣れ親しんできた自分の価値を廃棄することなのです。だから、人々は無意識にそれを拒否します。そのため、人々はイエス様を避けるようになったということです。

悪霊と戦うとは、偽りの情報と戦うということです。イエス様が伝えようとしている真理の代表的なものは、次の3つです。

## 1. あなたは良きもの

あなたは神に似せて造られ、神の一部分なので、良きものです。神が良き方である以上、あなたは良きものです。

## 2. あなたは愛されている

あなたは神の一部ですから、当然神の愛を受けています。誰もが自分のからだを無条件で愛し、からだが痛んだらいたわります。神のからだの一部であるあなたは、愛されているのです。

## 3. 罪は赦される

この世の常識は、罪は罰に値します。しかし、神にとっての罪はいやすものです。罪は病気だからです。

良きものなのに自由がない、良きものなのに罪を犯す、それは、病気だからです。この世界に死が入ってきて偽りの情報をまき散らしました。死はいのちと反対の運動です。それによって、私たちは本来の姿を奪われてしまったのです。

その本来の姿を取り戻すものが、イエス・キリストの十字架です。イエス・キリストの十字架は、あなたは良きものであるというメッセージを強烈に与えます。そして同時に、あなたは愛されているという強い非言語メッセージを与えるものなのです。

十字架によって、あなたは良きものであり、愛されているという真実が示されました。そして、この十字架によって罪は赦されるという、強いメッセージが伝えられました。

イエス様はこのようにして悪霊と戦われました。私たちがこの真実をしっかりと受け入れるなら、心が癒されます。偽りの情報をイエス・キリストの十字架によって追い出すことができれば幸いです。

「そのとき、悪霊を追い出された人が、お供をしたいとしきりに願ったが、イエスはこう言って彼を帰された。「家に帰って、神があなたにどんなに大きなことをしてくださったかを、話して聞かせなさい。」そこで彼は出て行って、イエスが自分にどんなに大きなことをしてくださったかを、町中に言い広めた。」(ルカ 8:38-39)

神の恵みを受けた者には、その恵みを伝える義務があります。伝道とは、聖書の言葉を覚えて伝えることよりも前に、あなたが受けた恵みを伝えることです。つまり、

あなたが喜びある生き方をすることが、そのままキリストを証しすることになります。神の恵みに根差して喜びある生き方ができれば幸いです。偽りの情報を追い出し、真実に支配されて、生きましょう。